

JAL闘争を支える京都の会News No.102

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

旅客機の1つのドアに1名 の客室乗務員の配置を！

2024年1月30日、大手筋商店街（京都市伏見区）で今年初めてのJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」、「連帯ユニオン関生支部」、「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、計16人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「JALは今年1月2日に羽田で衝突事故を起こした。そのJAL日本航空は14年前2010年の大晦日に165名を解雇した。そのことは、なかなか報道してくれない。私は1977年にJAL日本航空に客室乗務員として入社した。それから33年間、JALの安全のために働いてきた。1985年8月12日に起きた123便事故の日も乗務していた。33年間JALのためにがんばって働いてきたにもかかわらず、2010年大晦日、164名の仲間とともに解雇になった。その日JALが解雇した165名のうち81名がパイロット、客室乗務員が84名だった。その165名の全員が乗務経験20年、30年を超えるベテランであった。どの企業にとっても、ベテラン社員は宝物である。社員は何年も経験を積み、先輩から経験談を語り継がれ1人前の乗務員になっていく。そんなふうには保安要員としての知識を持ち、経営者に対しても『ダメなものダメ、安全でないものは安全でない。』と労働組合に結集して闘って仲間たち165名を解雇にしたのがJAL日本航空である。その年JAL日本航空は1884億円という過去最高の営業利益を上げている。それにもかかわらず165名の解雇が強行された。当時のJALの最高経営責任者であった稲盛和夫さんは解雇から2か月も経たないうちに、あの解雇は必要がなかった、そのように発言しておられる。最高経営者が必要がなかったと言っているにもかかわらず、私たちの解雇が強行された。それから裁判にも訴えたが、その中でわかってきたのが「モノいう労働者がじゃまだった」ことである。どんどん儲けるためには労働組合をつぶしてしまえ、それがJALの本音であることがわかった。1月2日、JAL516便と海上保安庁の飛行機が衝突をし、大きな事故が起きてしまった。JALの飛行機には犠牲者が出なかったが、海上保安庁の方に痛ましい犠牲が強いられた。今



テレビのニュースはどんどん少なくなっているが、JALのCAががんばったんだ、それは稲盛さんがJALに入っていい会社になったからだ、そのような論調のニュースが増えてきて、私はとても不安に思っている。あの事故はなぜ起きたのか、その追求をぜひしてほしいと思う。いくつか問題点はあげられている。事故を起こした飛行機エアバス A350機にはドアが8つある。ドア8つに客室乗務員が9名配置されていた。1つのドアに1名以上の客室乗務員がいたからこそお客様の安全を確保し、連絡を取り合い、どのドアが脱出に適しているか判断し、お客様を全員無事に脱出させることができた。しかしJALの中にはドア1つにつき1人の客室乗務員がいない飛行機がある。たとえばボーイング787機である。その飛行機の場合には片側の乗務員が反対側のドアも1人で2つのドアを担当しなければならない。私たちは労働組合に結集してドア1枚に客室乗務員1名を配置せよと長年闘っているし、ICAOという国際機関もそれが望ましいとしているにもかかわらず、日本の国土交通省、航空局はそれでも十分なんだと私たちの願いに耳を傾けることはしていない。あのような事故はいつ起こるかはわからない。ぜひ、この航空労働者の声にも耳を傾けこの声を大きくしていただきたい。」と訴えました。



今回はJHUの神瀬さんに話かけてこられた方が多かったです。(詳しくは神瀬さんの報告を参照)

神瀬さん (JHU) の参加報告 (JAL不当解雇撤回争議団の facebook から)

2024年1月30日

京都市伏見区大手筋商店街で宣伝を行いました。

話しかけてくださる方がいつも以上に多かったです。事故のあとだけに、横断幕や幟やタスキの「JAL」の文字に目がいくようです。

「役員が経営の責任を取らないで165名の首を切るなんてひどい。応援します」

「まだまだ働き盛りの年令。まだまだいい仕事をする人たちを何故切らなければならないのか」

「外で訴えるのは良いこと。頑張ってください」

などなどの声をかけていただきました。

こちらからドア数に満たないCA数の飛行機が飛んでいる

こと、CAは保安要員であるにも関わらず飲食業と位置付けられていること、そしてJALで起きた不安全事故は1月2日の事故だけではない、昨年12月22日には国交省から事業改善勧告が出ていることを訴えました。2月1日の青空チャンネルで516便事故を取り上げることもご案内しました。京都のみなさま、変わらぬご支援をありがとうございます！

ベテラン乗務員を空に戻せ！



次回 宣伝行動	(呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
2月27日(火)	午後2時~3時 伏見・大手筋商店街